平成２９年度第１回文化芸術に関する意見交換会　会議概要

１　日時　平成２９年７月３１日（月）　１３時３０分～１５時３０分
２　会場　さいたま市役所議会棟２階　第４委員会室
３　出席者（50 音順　敬称略）
＜委員＞
あらい　太朗／五十嵐　健一／石川　護／井藤　仁／石上　城行／大沢　英子／久米　尚子／久連山　健／佐復　恵治／茅野　憲一／長井　武志／宮内　則幸／森口　達治／山田　登美男
＜事務局＞
蓬田スポーツ文化局長／大西文化部長／山田文化振興課長／海津文化振興課長補佐兼文化振興係長／小暮国際芸術祭係長／柳沢主任／飯島主事／平原主事／野田主事

４　テーマ
（１）さいたま市文化芸術都市創造計画平成 28 年度施策集について
（２）国際芸術祭について
公開又は非公開の別　公開
５　傍聴人の数　０人
６　会議
（１）開会
（２）局長挨拶
（３）委員自己紹介
（４）委員長、副委員長選出（石上委員が委員長に、石川委員が副委員長に選出された）

委員長	次第５概要説明　（１）さいたま市文化芸術都市創造条例について（２）さいたま市文化芸術都市創造計画について、事務局より一括して説明をお願いしたい。
事務局	＜事務局より説明＞ ・さいたま市文化芸術都市創造計画冊子（事前送付）、資料１に基づき説明
委員長	説明が終わった。ただいまの事務局からの説明に対する質問、意見等はあるか。

委員	これは誰の作品か。（資料１の表紙）さいたま市の方か。
事務局	デザイン自体は印刷会社のデザイナーがデザインしたもの。いくつか写真をちりばめたものなど、何案か出してもらった中から一番良いデザインとして選定した。
委員	目を惹くデザインとなっており、おもしろかったので質問させていただいた。結局このようなところに芸術というポジションがあるように感じた。非常に大事なことだと思う。
委員長	そのほかに質問、意見等はあるか。
委員	委員会の位置づけについてお聞きしたい。薄い小冊子（資料１）の基本施策の体系について、基本施策、施策展開、具体的な取組となっているが、この中で自分達が委員として、意見できるのはどの部分か。
事務局	基本施策の体系は、さいたま市が取り組んでいる施策７つの中にどのような展開や取組があり、その中にどのような事業がぶら下がっているかというものとなっている。基本的にすべてに対して意見していただいて差し支えない。また、計画冊子の４０ページに意見交換会の立ち位置を示した図があるのでそちらを御覧いただきたい。図の左側にさいたま市とあり、施策の企画・立案、財政支出とある。その上に意見交換会が記載してあるが、この中で自由な意見をいただくこととなっており、さいたま市の施策に配慮をするということで関係所管課に申し出をし、施策への反映を促している。
委員	基本施策についても意見が言えるのか。
事務局	具体的な事例を含め、基本施策、施策展開、すべてに対して意見をいただいて差し支えない。
委員	これまでの意見交換会で、たとえばトリエンナーレに「このようなことが役に立った」などあるか。要するに年２回、この場で意見交換をし、どのように意見が反映されたかを知ることに

	よりモチベーションが上がると思う。
事務局	今までどういった意見があってどのように反映されたかということについて、平成２６年度に、盆栽、漫画、鉄道、人形といった、さいたまの強みがあるが、これを小中学校の授業の中に組み込む、子ども達の視野を広げていく何か仕掛けが必要ではないかとの意見があり、その仕掛けを考えてほしいとの要望があった。そのような中で、例えば今回の世界盆栽大会では大宮盆栽美術館において小学校１１校で盆栽の授業を実施した。また、補助金の関係では、補助金は、単に金額を増やせばいいものではない。一定の評価に基づいて補助金額を決めていくべきではないか。そうすることにより、競争原理が働き、補助団体もより活性化していくのではないかという意見があった。そのような中で文化振興課では、昨年度、文化芸術都市創造補助金の一部で審査にプレゼン方式を採用し、各団体からプレゼンをしてもらい、その評価をして、評価の段階に応じて補助金額を決めていくという形を取った。委員の皆様からの意見が反映された事例として、ピックアップさせていただいた。
委員	評価はどこがしたのか。
事務局	庁内の職員で構成された審査会が評価した。
委員長	次第６テーマ　さいたま市文化芸術都市創造計画 平成28年度施策集について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	＜事務局より説明＞ ・資料２－１、２－２に基づき説明 ・時間内に出せなかった意見等については、資料３に意見を記入の上、提出を依頼
委員長	説明が終わった。ただいまの事務局からの説明に対する質問、意見等はあるか。
委員	質問というか、色々聞いて幅が広いし、納得した部分もあったが、計画の策定にあたって２６年度から３２年度の７年間を計

	画期間と設定されているが、その根拠は何なのか。まずそれを説明してほしい。また、７年間で達成できなかったらどうするのか、年度によってどこまで行うか示した行程表などあるが、この計画はどこを目指しているのか。市民意識調査の２５パーセントという数値が上がれば良いという目標を掲げているが、それは抽象的だと思う。
事務局	まず７年間設定の根拠について、さいたま市の一番基本となるさいたま市総合振興計画、これは計画冊子の３ページに記載があるが、さいたま市の施策の計画は基本的にこの総合振興計画となっており、目標年次が３２年度となっている。これに合わせて創造計画も３２年度を目標年次とし、７年間という形で進行管理している。それぞれの計画の中には数値目標達成の土台、基準が入っており、私達が設定したものが、さいたま市を文化的なまち・芸術のまちとイメージする市民の割合となっている。御意見として抽象的との意見があったが、文化部としては、やはり、文化的なまち・芸術のまちとイメージしてもらう市民の割合が少しでも多くなること、それが計画の最終的なゴールであると捉えている。そこで計画全体の成果指標として文化的なまち・芸術のまちとイメージする市民の割合を設定している。
委員	計画の将来像で文化芸術を世界へ発信するまちという大テーマ、目標があり、これだけの広さがある市の目標として立派だと思うが、７年間で実現が可能かというところが見えにくい。事前に市の課題が送られてきた（資料４）が、事業規模を本市にふさわしい規模とするという言葉で書いてある。さいたま市の場合、世界へ発信するものが色々なところに少しずつあると思うが、これを本市にふさわしい規模と考えてみると、やはり見えにくいと思う。
委員長	３２年までにというのは、そこで必ず達成しなければいけないというものではないと思う。ただ年度を切らないと中核が立たないので、年度を切って、目標を掲げてやってみた、やってみて検証をして、達成できていなかったら、計画を変更する等の基準として捉えている。

委員	それだと達成できなくてもいいということになり、おかしいと思う。基本的に計画しているわけだから達成を目指さないといけない、そのための仕掛けだと思う。大きな話で言うと行政が行う話、あるいはまちづくりの中の話等、そこまで踏み込んでいってしまうと奥が深くなってしまう。意見交換会で意見するのは個々の施策といったようなものと認識している。大きな前提については、意見すべきでないと考えていたが、そのあたりはどうか。
委員長	大きな前提について意見すべきか、それとも個々の施策について意見をすべきか、どうか。
事務局	基本的にすべてに対して意見していただいて差し支えない。意見交換会なので、大きな施策の全体の流れだけとか、個別の意見はいただきませんというものではなく、大きな流れ、個別の事業も含めて御意見をいただければと考えている。
事務局	補足として、市の計画というのは、先ほど委員長がおっしゃった作りとなっていることが多く、ある一定の期間、本計画は総合振興計画、市の基本施策のベースとなっている計画と合わせている。当然、中間見直しや最終目標値を見据えながら作っているが、文化的なまち・芸術のまちとイメージする人の割合という成果指標についても、この意見交換会で色々と御意見をいただいて、最終的に到達したものとなっている。ただし、時代とともに社会情勢の変化等変わってくるので、おかしいと思う部分等、忌憚のない御意見をお願いしたい。また、ここは踏み込んではいけないという部分も特にないので、自由な御意見をいただければと思う。 計画の作りとしては、文化芸術都市創造計画は、行政が一般的に作る形となっている。
委員長	そのほかに質問、意見等はあるか。
委員	そういった基準として、前回のトリエンナーレにも達成目標があったかと思うが、どのような目標を掲げ、結果的にどうだったのか、また前回はどのような話し合いをし、結果はどうだっ

	たのか、成功だったのか、失敗だったのか、ということがわかれば次回のことを考えやすく今後の参考になると思う。そのあたりはどうか。
委員長	トリエンナーレについては、２つめのテーマ「国際芸術祭について」で目標や成果等説明があると思う。この場では施策集についての意見等をお願いしたい。施策集については、実は常々わかりづらいと感じている。
委員	施策の数の勝負をしているように感じる。施策集を見た色々なポジションの方が、数が少ないと言われているんじゃないかという印象をうけた。
委員長	どうしてもまとめ方が数を書いていて、施策数が減った、減っていないということが結論となっている。だとすれば、数によらないまとめ方、例えば、こうまとめればわかりやすいのではないかという意見が出れば、施策集の作り方が変わってくる可能性がある。
委員	平成２８年度の施策でいうと、やはり総花的、何でもかんでも入れましたねという印象を持った。これでさいたま市の個性が出るかといったら、出ないと思う。例えば、子ども短歌賞という事業が実施されていたが、子ども短歌賞だけでさいたま市の個性があるか、ないと思う。鉄道、漫画、人形、盆栽は市の個性としてすごく良いと思うが、このポジションが中途半端なところにしかない。もっと上位概念を持ってこないと個性が出ないと思う。子ども短歌賞に人形を表現する等、さいたま市の個性をもっと上位に出していかないと総花的になってしまい個性が出ない。そうすると別に横浜でもいいではないかという話になってしまう気がする。
委員長	さいたま市の個性とは何か、という話が必ず話題になるが、それについて、是非議論していただきたいと思う。県外からいらっしゃた方などどうか。
委員	さいたま市は合併してできたまちなので、個性はそれぞれ分散

	しているが、それでいいと思っている。これから歴史を積み重ねていく中で段々と磨いていけば良いと思う。計画の目標も立てられているが、必ず達成するものではなくて、今は地盤を固めていく時期だと思っている。個人的にはまちづくりを優先してもらいたい。例えば、有名なところだと川越、そのほか幸手、熊谷等、個性があると思う。横浜は西洋の歴史が長く、まちの中に画廊等多数あり、そこまでは難しいかもしれないが、２５パーセントの目標を達成すれば、市民が空き家を活用した施策を展開していく等、可能性が生まれてくるのではないかと思う。
委員長	まちづくりという視点は非常に重要である。先ほど話があった川越については、ある時期までは、誰も注目してなかったはずだが、ある時誰かが注目して、整備をして、プレゼンして、今の川越となった。そのようなことが仮にさいたま市でも起こりうるのか。まちづくりという視点でどなたか意見はあるか。
委員	今までまちづくりのために絵を書いていたわけではないが、盆栽も人形もまちづくりのために作っているわけではないと思う。芸術というのは自分がやりたいことをやって、その結果として一つのまちづくりに役に立つというのが本来の順序だと思う。そのような中で数値目標が最初に出てくると、芸術家の立場としては、違和感を感じる。しかし、その順序は絶対的に守られなければならないもので、行政と芸術が相容れない部分というのはそこに原因があると思う。そう考えると、まちづくりという視点でものを語ると、必ず１つの結論は出ると思うが、それが本当にさいたま市の文化芸術に実のある結論となるかは疑問に思う。 専門家の方には、コンテンツ、魅力を発信してもらうということでよいと思う。自分は漫画家なので、観光大使として北沢楽天について９年以上発信し続けているが、本日お越しの方の中には、さいたま市の漫画文化についてあまり御存知なかった方もいると思う。どれだけ色々やっても、全ての方へ周知するところまではいかない。そういったところを忖度していただいて、持ち上げてもらう。少なくとも、まず初めに漫画について興味を持っていただいて、北沢楽天とはどんな人物か、気持ちを持っていただくことが肝心である。

	行政の仕事は気持ちを抑えて仕事をしなければならない部分もあるが、忌憚のない意見をどうやってまとめていただくかというのは、本来は委員の仕事ではないと思う。
委員長	意見をまとめるのは委員の仕事ではない。忌憚のない御意見をお願いする。
委員	北沢楽天がなぜ盆栽町の盆栽村に住んだかというのには訳がある。環境が良く、空気、水がきれいである。さいたま市は内陸部に位置しており、川越市にも似ているが、非常に環境が豊かである。そこに盆栽が存在しているが、盆栽文化、技術を発展させるためには個性を深堀りしなければならない。 それには行政の協力が必要である。横浜は港があって明治時代が始まって以来の文明開化のまちとなっている。内陸部のさいたま市は、東京から帰ってくると空気が少し違っている。盆栽で考えると東京の盆栽は緑が薄黒い。そこにずっといると慣れてしまい感じなくなってしまうが、緑の美しさがない。大宮に持ってくるとその違いがよくわかる。 個性については、合併したそれぞれのまちの一番良いところをすくい出し、重点的に考えていけばもっと良いものが掘りおこせると思う。
委員長	普遍的にあり続けるさいたま市の魅力を見つけられるか、という観点からすると、この施策集からはなかなか見えにくいと思う。
委員	さいたま市の個性という話の中で、新潟の個性とはなんだろうと考えた時に、自分が言うのは新潟市のことだが、おそらく世間一般的にいうと新潟県の話になると思う。同じく、世界から見れば埼玉は完全に東京の一部だと思う。インバウンドで京都の岐阜に行ってきたという方もいた。海外の方から見ると岐阜は京都の一部になっている。日本の県外から見るとさいたま市は埼玉県と違いがないと思う。このように個性とは誰をターゲットにするのかによって違ってくると思う。 結論としては、自分達で個性を発信していかないと、ぼんやりとしてしまうので、しっかりと個性を発信していくべきだと思

	う。
委員長	ターゲットという視点は大事だと思う。この資料が市民のためなのか、観光客を誘致するためなのかによって全然意味合いが違ってくると思う。
委員	まず、送られてきた資料の膨大な厚みと文字数の資料に目が行き、圧倒された。行政として、１つの形としてこのような方法しかないと思う。ＰＴＡと関わる機会が多いもので、教育委員会が作る資料などを目にする機会が多いが、行政がつくるものは１つのパターン的には、このようなグラフ的なものとか表現方法はどの課でも同じである。ただ、今回の文化芸術に関してはそれと一番相反するもの、対局にあるものと思う。お金がかかるものだし、市民の色々な目もあるので、行政としては、どうしてもそういうものが１つのバロメーターとなる。それが１つの判断基準、手段となり否定はできないと思う。この委員会では、意見を何でも言ってくださいというスタンスは、当たり前と言えば当たり前だが、有り難いことだと思う。文化芸術に関してこのような機会がないと最初から破綻してしまう。一つの形としてはそれをとらざるを得ないが、行政の方にも頭の半分にはそれとは違う考え方を持っていただきたい。今朝の朝日新聞にも今回で６回目となるヨコハマトリエンナーレの記事があり、１回目何万人入った、２回目何万人入ったという数字が表に書かれており、一番多くて５５万人、一番少なくて１５万人だったと記憶している。このようにどうしても数字は見るものだが、後で、だからなんだという風にも思う。内容的なものが横浜市民にとってどの程度数値でないものを与えることができるか、豊かさを与えることができるか、少なくとも数値目標は出さざるを得ないというのは、私達も容認せざるを得ないが、それとは別の考え方を委員の方々は持っていると思う。そのような意味でなければ、この施策集は、箇条書きで分類し、これだけの文字数でとなると、どうしても行政としては一つの形として残さないといけないだろうし、必要な部分もあると考える。半分は理解しているので否定はしない。 さいたま市のイメージについて、文化財の修復をしているので、どうしても古いものに携わる機会が多く、色々なお寺、神社に

	収蔵されている文化財を修復している。生まれた所も長野で、長野というと善光寺、自然、というイメージがあると思う。東京イコールさいたまという話が先ほど出ていたが、大宮だと氷川神社というイメージが誰にでもあると思う。その割には私が思う善光寺に対するイメージで関わっていることと、氷川神社というのは、神社と寺の違いもあるかもしれないが少し違う。大宮としての神社の歴史、そういうものに関連する文化、そこから派生する色々なものが出てくるのも文化だと思うが、さいたま市のイメージについては、自分はぱっと言えない。その言えないという部分について、考えなければならないし、そのもやもやした中に核が意外と潜んでいるかもしれない。
委員長	豊かさをどう示すとか、個性がもやもやしているからこそ可能性があるのではないかという御意見だったと思う。 時間が限られているため、次の進行に移らせていただきたい。 次第６テーマ　国際芸術祭について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	＜事務局より説明＞ ・資料４、資料５に基づき説明
委員長	説明が終わった。ただいまの事務局からの説明に対する質問、意見等はあるか。
委員	基本構想、資料５の１１ページに載っている部分について話してもらったと思うが、結果としてこれは良かったのか、悪かったのか、イエス、ノーで言ったらどうか。
事務局	イエスともノーとも言えないが、当初狙った効果はあったものと考えている。
委員	他の市と比べ経済効果２９億円というのは効果があったのか。３６万人が来て、２９億円とある。一方で横浜は２１万人しか来ていないが７５億円とある。これをもって良かったとできるのか。

事務局	どのような経済波及効果の算出をしたかにもよるが、残念ながらさいたま市にはインバウンドを呼び込んでも泊まっていただける宿泊施設が少ない。つまりキャパシティーとして泊まっていただくホテルを備えない限り、横浜のように大規模なホテルがあり、何日も泊まっていただいて、お金を落としていただくということにはならない。もう一つ反省点として思っているのは、飲食店などにお金を落としていただくような会場の配置にはなりづらくなっていたということがある。アンケート調査で統計した数字となっているが、アンケート調査だと３６万人来ていただいているが、外から来て、なおかつさいたま市でお支払いただいたお金が少なかったということがある。 次回には前回の反省を活かして改善していきたいと考えている。
委員	次回国際芸術祭ではトリエンナーレという名称は取るということだが、そうするとトリエンナーレの３年に１度という意味も取り払うということになるのか。
事務局	時期については、現在検討を進めているところだが、一番大きいのは東京オリンピック・パラリンピックなどの国内外の方々から注目される機会を使って、一体的に開催することによる相乗効果を狙っていきたいということがあり、トリエンナーレという名前は除かせていただいた。
委員	前回の意見交換会でもトリエンナーレの言葉そのものが難しいという話があり、一番にもう少し噛み砕いたわかりやすい広報の仕方が必要だったと思う。自分は岩槻だが、周りの人で関心を持っている人はほんの一部だった。一般の人は無関心であり、せっかく良い事をやるのにもったいないと思う。さいたま市は４つの市が１つになった広い市であるが、開催会場も３つに分けられ、広くて見て回るのも簡単なことではなかったと思う。もう少し集約し、それが一方的にならないよう、例えば４つの市の何か特色があれば、それを持ち回りにしていくなど、一つの方法かと思う。
委員長	トリエンナーレについて、見に行った方も見に行っていない方

	もいるかと思うが、まだ発言のない方で、見に行ったか、見に行ってないかをお聞きしたい。また、見に行った場合その感想、見に行ってない場合その理由をお聞きしたい。
委員	トリエンナーレという名称は知っていたが、実際に行くことはできなかった。周りの人の意見を聞いても、小難しい、面倒くさい、何を言っているかわからないという人が多かった。もう少しわかりやすくすれば、慣れ親しんでもらえるのではないかと思う。文化はその土地の人に愛されて育てていくものだと考えている。
委員	トリエンナーレの関係でさいたま市の美術家展を開催した。日展などに出展する人達が地元の人達に見てもらおうと開催したが、１週間くらいで３，０００人程度の観客だった。正直もう少し県外などからも観客が来ると思っていたので、少し残念だった。ＰＲが足りなかったと感じた。
委員長	そのほかに質問、意見等はあるか。
委員	トリエンナーレを開催するにあたり、公聴会が開かれ、教育委員会から出席依頼があり、出席した。その時に自分はトリエンナーレに反対をした。理由としては、過去の愛知、横浜など、その時点でトリエンナーレは下降気味という印象を持っていたため、流行遅れではないかと申し上げた。愛知や横浜は現代美術が中心であるが、現代美術というのは市民にとってどれだけ理解されるか。現代美術自体は否定はしないが、見る側、受け手側もレベルアップしていかないと理解できないものだと思う。わかるかわからないかというよりも海外の作家達の作品を見て自分の中で何を感じるかというものが現代美術だと思う。トリエンナーレなどのひとつの美術イベントというのは、完璧にイベントを主催する、運営する会社だと思うが、名前を見ると同じ人で、同じ傾向的なものとなっている。横浜、愛知にしても土地の良さを取り入れていて、さいたまについてもそういった点は考慮したと思うが、傾向的にはトリエンナーレというスタイルは全般的に同じに見えてしまう。トリエンナーレ、芸術祭は必要だと思うが、さいたま市としてのスタイル、国際基

	準に合わせるとか、そういうところにいきなり背伸びしていく必要もないと感じた。さいたま市にできるもの、背伸びをしない、そういったものをもう少し考えていく必要がある。
委員	前夜祭、キックオフイベント、息をする花、１万人のゴールドシアターなど、芸術劇場からすると展示などはぴったり合うもので良かったが、それだけで劇場の集客効果となるまでは至っていなかった。自分もすべてではないが、何か所か行かせてもらったが、行きづらいと感じた。合併をしている市なので、トリエンナーレとしてもある程度総花的にならざるを得なかったと思うが、場所が点在し、一度に集客するのはかなりきびしかったのではないかと感じた。
委員	４点あり、まず１点目、トリエンナーレの名称変更について、トリエンナーレは聞きなれない言葉だったので、国際芸術祭とするのはわかりやすいと思う。２点目にロゴについて、トリエンナーレのロゴは今後変更になるのか知りたい。３点目に作品について、盆栽、漫画、人形、鉄道といったさいたま市を活かした作品がもっとあれば良かったと思う。４点目に作品を見て回るルートについて、作品を見ていくモデルルートのようなものを示していただくと良かったと思う。
事務局	まず、名称変更については、トリエンナーレというのはわかりにくいという意見があった。一方で、トリというのが我々は３年に１回開催するという意思の発出でもあった。しかし、同じ局にカタカナでクリテリウムという自転車競技があり、わかりにくいということもあって、原点に戻り国際芸術祭を開催するということとなり、今回は国際芸術祭という名称とさせていただいた。ただし、トリエンナーレという言葉を小さく小見出しに出すかは今後の検討となっている。 ロゴについては、前回の２０１６のイメージとしてディレクターも含めて打ち出したものとなっている。未来の発見というテーマもあった。次の国際芸術祭のイメージに合わせてロゴは出したいと考えている。地域資源については、今回の普遍的なテーマとして、さいたまの未来、過去、現在ということで、前回の２０１６は未来の発見というテーマを出した。その際にもさ

	いたまスタディーズとして、さいたまの歴史、地質的なモーメント、さいたまを遡り、かつてはこのような地域でこのような文化が栄えていたなど、勉強したものをアーティストに還元し、それを作品に添加するということだったので、どうしても地域資源の方の傾向には反映ができなかった。その点は反省材料とし、さいたま市の国際芸術祭として他にPRするために地域資源を取り込んだ形で次は打ち出したいと考えている。モデルルートについては、最初から一つのエリアというわけではなく、今回発表できる場所を実際にディレクターと歩いて見つけた。最初のトリエンナーレということもあり、１箇所とはできなかったが、３箇所の回りやすいルートというのは、実はホームページに公表、御案内したが、なかなか御覧いただけず、利用していただくまでに至らなかった。その後、車で来場される方が多かったことから、駐車場を確保してフォローをし、ルートの参考とした。
委員	次回のディレクターの選任については、もう少し考えていただきたい。フォーマットが同じで、出してくるものだけ少しずつ変えるだけでは変わり映えがしない。
委員	トリエンナーレに参加したが、会場が非常に分散化されていて、行政目線であり、市民との目線が違うと感じた。市民を意識するのであれば集約と分散を広げるのは良くないと思う。特色のあるもの、これしかないといったものを絞り、洗い出していければ発展していけるのではないかと思う。 市民意識調査の２５パーセントという数値目標について、すごいことを行うなと思ったが、同時に具体的にどのようなことを行う必要があるのか考えなければならないと思った。 そこで、提案だが、本日会場に来る途中、水場で子供達が遊んでいるのを見た。そこには必ず保護者が付いていたが、彼等を引き込めないものか。彫刻の森美術館には子供が遊ぶ場所が併置されている。つまり関心がないという方が多い。絵を描いたり、観るのも好きじゃないという方が多い。特にさいたま辺りだと一部は関心のある方がいるかもしれないが、今日の話を聞いていると、ほとんどの方が関心を持っていないと思われる。そういった方々をいかに引き込むかというのは、若い夫婦と子

	供をターゲットとした、子供広場というものをセッティングするということは一つの意識を高める方策だと思う。子供は好きだから、必ず来ると思う。そうすると保護者も関心を持たざるを得ない。１回ではなく、２回、３回積み重ねていけば、芽生えてくるのではないかと思う。ただ、ある程度の７年間のタイムスケジュールはあった方が良いと思う。
委員	トリエンナーレについて、これは国際芸術祭と名前を変えて、次は開催することを前提として話を進めているのか。次は開催しないという選択肢はないのか。
委員長	全体計画で行くと重点プロジェクトで象徴的なイベントを実施するとしており、それが国際芸術祭という手段であると認識している。象徴的なイベントが必ずしも国際芸術祭でなければならないかと言えば、必ずしもそうは言えないかもしれない。
事務局	まずは、委員長がおっしゃったとおり、この構想を作るにあたって、その前に計画を作ったものである。これは重点プロジェクトとして、昨年行ったトリエンナーレ、国際芸術祭につなげていくとしたもので、具体的にこの計画に基づいて、近い将来、生き生きと心豊かに皆さんが暮らせるような都市づくりをするための手段として、国際芸術祭を重点的にやっていこうという仕組みで、昨年開催した。そうすると次が３年後なのか４年後なのかは別として、引き続き国際芸術祭に相当するような取り組みをしていきたいというのは前提にある。ただ具体的にいつまで、将来どうするかとなると、今度は行政の仕組みで予算が伴ってくる。予算は、毎年度単年度で考えていく仕組みとなっているため、３年後確実にできるか、あるいはその先の６年後できるかということになると、具体的に６年後やります、その先でも続けますと言いにくくなる。私達だけでなく、行政は国を含めそうだが、そうは言っても前提がないと将来性がなくなるので計画を作っている。計画に基づいて考えれば、少し先まで続けたいという思いはある。
委員	前提で計画に基づき、文化芸術都市を目指したトリエンナーレの開催としていることは理解した。だとすると、トリエンナー

	レの反省をもっと細かく落とし込んだほうがいい。経済効果はわかったが、期待される効果を３つあげているが、例えば市民の誇りと郷土への愛着の醸成とあるが、それはどう数値化するのか。その点を考えないと同じ事の繰り返しになってしまう。その点を次回の委員会や追加資料として示してほしい。
委員長	時間となったので、以上で意見交換を終了とする。 進行は事務局に返す。

（５）その他

事務局より事務連絡

７　閉会

さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課
電話８２９－１２２６
Fax８２９－１９９６

平成 29 年 7 月 31 日開催　文化芸術に関する意見交換会　　意見書概要

1　施策集について

・それぞれの事業の件数や規模、その推移などはよく解るようになっているが、なかなか、実情をイメージしにくい。例えば、一つの事業を実施するためにどの程度の金額がかかっているのか、また、助成をしているのであれば、事業全体の実施経費に対して市がどの程度費用を支援しているのか、を明記することによって、実態をイメージする際の助けになるのではないかと考えた。
更に情報を積み上げていけば、市の文化政策の予算の全体像が明らかとなるし、補足的にさいたま市の全体予算や、他の市町村の事例なども併せて示していただけると、文化政策の充実といった観点から現在の規模や配分が妥当か否かということについて、より具体的に議論が進められるようになるのではと考えた。

・ 若年層とシニア層の交流の一環として、市立学校で地域文化芸術祭を開催してはどうか。

・地域街づくりとして、空き家対策の一つで文化芸術に気軽に触れられる「カフェスペース」等に衣替えを促し、市民が集えるよう協力と支援の行政施策に取り組んでみてはどうか。

・地元企業、商店、事業等の経済的プラスになるよう文化芸術資源(社寺仏閣、盆栽、人形、漫画、鰻、鉄道等)と自然資源(みぬま田圃、荒川・元荒川等緑地)を連携させてみてはどうか。写真展、スケッチ絵画展等の開催や「道の駅」づくりもその一つになりうると思う。

・事業に直接係わった方々の情報・意見を取り入れる機会をつくるべき。

・施策集は７年間のタイムスケジュールを作成する必要がある。それによって、年度ごとの達成度と課題を積み上げることが大切だと思う。

・さいたま市という特色を出すため、歴史・伝統・文化に焦点化した方がいいと思う。「盆栽」「漫画」「人形」「鉄道」という地域資源を大切にする“まち　さいたま”とのコラボレーションを展開したらいいと思う。

・計画とのかい離が見えてこないように思う。施策によっては、当初どれだけの内容で計画したのかが不明のため、明確にすべきと思う。

・目標とする項目はある程度絞った方がいいかと思う。例えば、会場開催のものであれば集客数、応募のものであれば応募総数といったようなメルクマールが必要かと思う。

2　国際芸術祭について

・内容が直前まで決まらなかったということもあるが、広報スタートが遅れてしまったと感じている。内容を正しく伝えることも大切だが、行ってみたいと思わせる、分かり易い提示という考え方もありうると思う。また、広報する対象も、吟味する必要があったように思う。対象を「市内」「近隣地域（県内と首都圏）」「それ以外の国内」「海外」と区分して、それぞれニーズに合った広報展開をする必要があったと思う。特に後述の 2 区分についてはホームページによる広報が重要となるので、小回りの利くページを立ち上げる必要があったと思う。

・実行委員会を今回のようなメンバーで組織したことは、かなり有効に機能したと感じている。が、各事業の企画立案や実施運営に際して、全体を見据えて交渉したり実施したりする部署を組織できなかったため現場での判断が遅れるなどロスが多かったように感じる。具体的には、市役所とディレクターチーム、更に受け入れ先となる市民で構成する「運営委員会」的なものを組織して実務にあたる必要があったと思う。

・市民プロジェクトや連携プロジェクト、更には大学コンソーシアムなど市内の諸機関との連携を掲げながら、それぞれの実績や成果などについての言及が少ないように感じる。そもそも文化芸術都市の創造を目指す重点プログラムとしての芸術祭なのだから、既存の文化活動を印刷物上で紹介するだけにとどまらず、具体的な連携のビジョンを示す必要があったように感じる。具体的には、それぞれの活動の成果を報告する展示会と、それぞれの当事者が集うシンポジウムのような企画が実施出来れば良かったと思う。

・このような規模の催しはこれまでの文化政策とは違い、市のブランド力を高めるという最終目的を重く受け止めて、1 部局のマターとして考えるのではなく、観光や産業振興といった視点も考慮してそれらを担う担当部局を巻き込むことも重要と考える。また市議会にも、この趣旨を理解し推進する議連のようなものがあった方が良かったのではないかと思っている。特に今回、特定の議員がトリエンナーレの開催に際して、建設的でない質問する様子が度々動画サイトにアップされ、結果的に市政全体にネガティブな印象を与えかねないキャンペーンとなってしまったので、非常に残念に感じている。

・市民の関心、意識向上のために、テーマを市民公募としてみてはどうか。

・現存の歴史・文化芸術資源の活用を優先させてみてはどうか。さいたま市特性のアピールと協力や取り組みやすさ、費用削減にもつながると思う。

・ホームページ、リーフレット、インターネット、マスメディア等を活用し、県内や関東圏など広域からの来場促進に重点を置いてみてはどうか。

・市内宿泊施設の案内や施設への協力依頼をしてみてはどうか。
（宿泊者向けリーフレットの設置、地元の土産販売など）

・ルート設定を明示し、最寄り駅、徒歩、バス等の移動手段について、時間・ダイヤなど来場者に向けての広報に配慮してみてはどうか。

・合併都市であるため、市民の相互理解、交流を促進させものとするべき。

・外から見る視点で意見をもらってみてはどうか。

・事後評価は第三者をベースとして行い、次回開催する際に良いところはさらに充実させ、悪いところは糧とするべき。

・メイン会場は、スーパーアリーナとし、できるだけ集中化を図った方が良いと思う。そして、こどもあそびひろばを設置するべきと思う。

・改訂版 P.10 の会場展開イメージは賛成。

・市民へのわかりやすい周知、関心を持って会場に訪れてもらえるような広報活動が大切かと思う。また、あらゆる関係者・関係機関を利用するべきと思う。

・「トリエンナーレ」の名称の変更に関しては賛成するが、そもそも「トリエンナーレ」には意味づけがあったと思う。それをオリンピックに合わせる、名称が不知等の理由で変更するのはおかしいと思う。ただ「トリエンナーレ」ではあまりにもわかりにくいため、賛成するもの。

・会議の中で現代美術について理解できない等の意見が出たが、私もそれに反対するものではない。しかし、理解ができるかどうかで排除することはいけないのではないかと思う。人気が高い「印象派」も当初は理解不能で排除されていた。考えないといけないのは、それを鑑賞する手立て（補助）をきちんと設けることかと思う。例えば、市民講座で「現代美術の鑑賞術」の連続講座など。

・開催場所について、今回のトリエンナーレのような分散ではなく、岩槻や盆栽町等での集中開催がいいかと思う。浦和や大宮は利便性があるが、いいものがあれば少し不便であっても集客はできるかと思う。

・トリエンナーレの細目の反省項目は説明の必要があるかと思う。